

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会
日 時	令和2年2月10日(月) 19:00～20:10
場 所	徳島大学病院日亜ホールblue (外来棟5階)
出 席 者	宮本会長、金山部会長、滝沢委員(徳島大学病院)、中本委員(県立中央病院)、石倉委員(徳島赤十字病院)、日野委員(徳島市民病院)、漆川委員(徳島県鳴門病院) 住友委員(県立三好病院)、影治委員(徳島県立海部病院)、吉田委員(阿南医療センター) 林委員(吉野川医療センター)、寺嶋委員(緩和ケア部会長)、水口委員(徳島県薬剤師会) 居村委員(肝がん部会)、六車委員(胃がん部会)、西村委員(子宮がん部会)、岡久委員(大腸がん部会) 位頭委員(徳島県介護支援専門員協会)、宮本委員(患者会) 飛梅氏(代理)(徳島県歯科医師会)
欠席者	藤原委員(阿波病院)、鎌村委員(徳島県保健福祉部)、木下委員(徳島県医師会)
陪 席	徳島大学病院医事課：小林副課長、中西係長、宮越技術補佐員 徳島大学病院：三木看護師長 徳島県健康づくり課：前田係長
<p>【議題1】 各がんの診療連携の状況について</p> <p>最初に、金山徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会長(以下、金山部会長という。)司会進行のもと、徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会が開催された。開催にあたり、徳島県がん診療連携協議会宮本会長から挨拶があった。</p> <p>1. 徳島県生活習慣病管理指導協議会の各がん部会より報告があった。</p> <p>① 乳がん部会：日野委員から、今年度は治療の記録ノートの乳がん第4版を作成する予定で現在校正中である。また、乳がん部会では乳がん検診の用紙について簡易に出来るよう一元化できないか検討中であるとの報告があった。</p> <p>② 胃がん部会：六車委員から、胃がん部会は令和2年2月3日に開催された。議案として診療連携に関することはなかったが、地域連携クリティカルパスについて治療の記録ノートを積極的に活用していただけるよう周知を行ったとの報告があった。</p> <p>③ 肝がん部会：居村委員から、肝がん部会は令和2年1月29日に開催された。部会議題に関しては専門医療機関及び標準医療機関の機能調査票の結果から機能についての確認を行った。浦田病院が標準医療機関の要件を満たしているとのことで承認された。また「がんの医療体制」について委員から承認があり県のホームページに掲載されるとの報告があった。</p> <p>④ 子宮がん部会：西村委員から、子宮がん部会では毎年検診受診率が低いとの報告があった。また、ヒトパピローマウイルスワクチンの積極的勧奨再開するために取り組みを行い、医師向け研修会や市民向けの講演会を開催する予定であるとの報告があった。</p> <p>⑤ 大腸がん部会：岡久委員から、大腸がん部会はがん検診受診率向上に向けて新しい取り組みを行う予定である。1つは徳島県版健康アプリを考案し導入した。2つ目はNHKためしてガッテンでがん検診受診に関する番組が毎年行われているが、放送日が検診時と異なるため再放送していただけるよう提案を行う。徳島市の取り組みとして早期発見の周知を行っており、大腸がん部会も一緒に取り組んでいるとの報告があった。</p>	

- ⑥ 前立腺がん：金山部会長から、前立腺がんに関しての部会はない。徳島県医師会と徳島市医師会が前立腺がんの啓発を行っている。「前立腺がん市民公開講座」を県南で開催を行い、多くの市民の参加者があった。また、昨年予定していた徳島市での公開講座が台風で延期となっていたが令和2年2月に徳島市医師会館で開催を行い多数の参加があったとの報告があった。
- ⑦ 肺がん部会：住友委員から、今早期は肺がんの方の登録をどうするかとの議論があった。また、滝沢委員から、肺がんの化学療法治療が増えてきたため、手術や化学療法治療が行える病院の確認を行っているとの報告があった。

【議題2】各拠点病院における地域連携クリティカルパスの活用状況、手帳の運用状況について各拠点病院から、別紙資料1に基づき連携保険医療機関届出施設数とがん治療連携策定料加算件数の報告があった。

- ① 徳島大学病院滝沢委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成31年4月からの算定は、乳がんがもっとも多く算定できている。電子カルテから簡易に算定できるようシステムを変更したため、少しずつ増えてきている。がん患者指導管理料1.2に関してはがん放射線看護認定看護師やがんの認定・専門看護師が算定を行って増えてきている。手帳の運用については外来・入院時に配布を行っているが、様々なセミナーや県民対象のフォーラムなどでも配布を行っている。連携保健医療機関については、毎年連携保健医療機関は増えてきているとの報告があった。
- ② 徳島県立中央病院中本委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成31年4月からの算定は胃がん、大腸がん、肺がん、婦人科がん、前立腺がんの算定を行っており肝がんも始めた。がん患者指導管理料についても、算定を行っているが今年度は少し減っている。インフォームドコンセントの在り方などの見直しを行い増やしていきたい。治療の記録ノートについては、外科の術後の患者さんの退院時に配布を行っている。連携保険医療機関数は今年度肝がんについて連携を始めたとの報告があった。
- ③ 徳島赤十字病院石倉委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成31年4月からの算定は他院に比べ少ないが、少しずつ算定を行っている。がん患者指導管理料も毎月算定を行っている。治療の記録ノート配布については、7月頃から配布を行い始めている。連携保険医療機関数は、胃がん、大腸がん、肺がんが連携が出来てきているとの報告があった。
- ④ 徳島市民病院日野委員から、がん治療連携計画策定料加算は算定ができる環境であるが周知不足で算定が出来ていない。がん患者指導管理料についてはがん患者指導管理料3の加算が算定できている。治療の記録ノートの配布についても周知不足で配布が出来ていない。連携保険医療機関数は、前立腺について今後増えてくる予定であるとの報告があった。
- ⑤ 徳島県立三好病院住友委員から、がん治療連携計画策定料は算定できていないが、連携していただけるよう地域の病院に出向いて連携保険医療機関になっていただいた。あとは厚生支局に提出を行えばいい状況となっているとの報告があった。

【議題3】徳島県民がんフォーラム開催報告について

金山部会長から、別紙資料「徳島県民がんフォーラム2019実施報告書」について報告があった。

- ① 令和元年9月8日(日)13:30~16:00徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。
- ② 内容は「がんとうまく付き合う患者術・生活術」で主治医との向き合い方、抗がん剤について、口

腔ケア、がん相談支援センターなどについて行った。

- ③当日の総来場者は591人(事前申込が491人、当日受付100人)と非常に多数の参加があった。
アンケート結果は資料を参照。

金山部会長から、当日はポスター展示やリレーフォーライフの募金箱を設置させていただいた。継続して毎年市民公開講座を行いたいとの要望があった。

【議題4】その他

①治療の記録ノート・乳がん手帳の作成

日野委員から、先程も乳がん部会報告で伝えたが乳がんの治療の記録ノート第4版の作成を行っているところであるとの報告があった。

②今後の治療の記録ノート作成について

徳島県健康づくり課前田係長から、がん診療連携拠点病院と地域の医療機関及び患者さんとの連携支援のために、平成24年から徳島県が徳島大学病院に委託して治療の記録ノートを作成している。平成27年からは県の財政が厳しくなってきたため、災害医療推進基金を活用して継続してきた結果、現在では9つのがん種の手帳が出来ている。しかし、災害医療推進基金も減額され令和3年度以降は予算の見通しが立たない状況である。先ほど報告いただいたように各病院の配布状況などに差がある中、今後の手帳の在り方を御検討いただきたい。との報告があった。

金山部門長から、費用も厳しくなってきたため今後検討していかなければいけないとの意見があった。

石倉委員から、ひな形をいただければ後は必要な病院が作成を行えばいいのではないかと意見があった。

寺嶋委員から、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会からの報告として、県内の緩和ケアチームが年に2回交流会を行い、その中で各施設間を訪問してPDCAサイクルを回している。また、webカンファレンスを地域の緩和に関する関係者と以前から月に2回開催していたが、今年から月に1回開催を行うこととなった。令和2年1月28日に緩和ケア部会の開催を行ったが、その中の議題として徳島県立中央病院が作成を行っているアドバンス・ケア・プランニング冊子を県内統一として県内の病院等で使用できないかとの要望があった。検討の結果、ワーキンググループを立ち上げて内容の見直しを行いたい。その後、印刷は各施設の予算で行うのでいいのではないかと意見があり、徳島県がん診療連携協議会で承認していただく予定であるとの報告があった。

住友委員から、当院でもアドバンス・ケア・プランニング冊子を使用している。当院では、他の疾患のアドバンス・ケア・プランニングについても行っており、がんだけに特化してしまうのはどうかとの意見があった。

寺嶋委員から、アドバンス・ケア・プランニングはがんだけではなく、がんのアドバンス・ケア・プランニングにも取り組まなければいけないため、がんにも使用できるのではないかと、それぞれの施設で使用しやすい冊子の作成を行いたい。徳島県がん診療連携協議会ワーキンググループの作成で行いたいとの意見があった。

宮本会長から、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会でも多数の施設から使用を行いたいとの意

見があり、徳島県がん診療連携協議会の委員で承認をいただければ内容の検討を行い作成を行う予定であるとの意見があった。

住友委員から、使い方を間違えると大変である。リビングウィルにならないようアドバンス・ケア・プランニングは過程であることを理解していただき使用をしていただきたいとの意見があった。

宮本委員から、令和2年3月16日18：30～グランヴィリオホテルにて災害時の医療連携について講演会を開催する。基調講演は国立がん研究センターの高山智子先生、パネルディスカッションとしてAWAがん対策募金が主となり患者会、行政、県議会、マスメディア等が参加して行うため、参加いただきたい。また、がん教育として文部科学省から教育指導要綱が変更となった。外部講師を活用し小・中・高等学校でがんの知識を学ぶため事業をしていただくこととなった。医療関係者とがん患者も一緒に取り組むこととなっており、今後ともご協力をお願いしたいとの意見があった。

金山部会長から、案内チラシが出来上がれば関係者に周知していただきたいとの要望があった。

岡久委員から、徳島大学病院消化器内科より腹水濾過濃縮再静注法の装置についてプレスリリースを行う予定であるとの報告があった。

金山部会長から、参加いただいた委員から一言いただきたいとの要望があった。

影治委員から、南部地域で開催していただいた前立腺がんの講演会は大変よかった。がんに特化した講演会はなかなかなく、がん検診にも結び付いたのではないかと、今後ともお願いしたいとの要望があった。

吉田委員から、診療連携には構築が難しい。紹介を行って帰ってくるのがなかなかなく、帰ってくる頃にはターミナルとなる。患者も、在宅には帰りたがず連携が活用されていないのが問題であるとの意見があった。

漆川委員から、連携が出来ているがんと出来ていないのがある。肺がんは連携が出来ているが、婦人科は連携が少ない。今後は、もっと連携のことを話ししていきたいとの意見があった。

林委員から、当院は緩和ケアチームがそろそろ発足する予定である。また協力をお願いしたいとの要望があった。

飛梅氏から、日頃は周術期の紹介をいただきありがたい。がん患者には口腔ケアも必要である。歯科医師会もアドバンス・ケア・プランニング冊子の使用もさせていただきたいとの要望があった。

位頭委員から、在宅で緩和ケアのがん患者さんや認知の方が災害時にどうするのか、災害時の対応についてケアマネージャーから声が上がっている。突発時にうまく連携を行いたい。令和2年3月16日に徳島市医師会と徳島市民病院と一緒に災害時の研修会を行う予定にしている。今後とも多数の医療機関と連携が出来ればよいのではないかと意見があった。

水口委員から、昨年の11月に薬機法改定で新認定制度「地域薬学ケア専門薬剤師」が設立されることとなった。がんなどの専門的な薬学管理に対応できる「専門医療機関連携薬局」も作らなければいけない。その薬局の要件に「地域薬学ケア専門薬剤師（がん）」として認定するものを配置となるため、2～3年以内に育成を行わなければいけない。まだ具体的なことはわかっていないが、今後は病院等で研修を行わなければいけないため協力をお願いしたいとの要望があった。

金山部会長から、がん診療連携拠点病院から地域の医療機関に診療連携を行いたい。今後は、連携

に関するセミナーも行いながら診療連携を深めていただきたいとの要望があり閉会となった。